

「日本語NAT-TEST」について

1. 基本方針

「日本語NAT-TEST」は、日本国内で1989年（平成元年）から、また台湾では1996年（同8年）から実施している「日本語学力テスト」のノウハウをもとに作成されております。この「日本語学力テスト」は「日本語能力試験」と同じ出題基準で作成されておりますので、「日本語NAT-TEST」も「日本語能力試験」と同じ出題基準ということになります。

「日本語能力試験」は、2010年に大幅に改訂されました。等級が5等級になった他に、分野の構成、配点など出題形式も変わりました。これを受けて、「日本語学力テスト」、「日本語NAT-TEST」とともに、「日本語能力試験」に合わせる形で次のような改訂を行いました。

2. 等級

1級（「日本語能力試験」N1相当）、2級（同N2相当）、準2級（同N3相当）、3級（同N4相当）、4級（同N5相当）

N3は従来の2級と3級の中間に位置するものであること、また、日本国内では英語検定など準2級と一般的に呼称されていることなどのために、「日本語NAT-TEST」では「級」の呼称を使い、N3を準2級としました。

3. 試験科目・試験時間・配点

基本的には「日本語能力試験」の出題基準に合わせて次のように変更しました。

- 1級 : 言語知識（文字・語彙・文法）・読解（110分）、聴解（*60分）
- 2級 : 言語知識（文字・語彙・文法）・読解（105分）、聴解（*50分）
- 準2級 : 言語知識（文字・語彙）（30分）、言語知識（文法）・読解（70分）、聴解（*40分）
- 3級 : 言語知識（文字・語彙）（30分）、言語知識（文法）・読解（60分）、聴解（*35分）
- 4級 : 言語知識（文字・語彙）（25分）、言語知識（文法）・読解（50分）、聴解（*30分）

* 聴解の時間は回によって若干異なります。

配点は1級、2級も含めて、言語知識（文字・語彙）（60点）、言語知識（文法）・読解（60点）、聴解（60点）の合計180点です。

4. 合否の判定

それぞれの分野での得点が25%以上であることが一つの基準です。その上で、合計

得点が一定基準以上であることが合格の基準です。合格ラインは 50 %～ 60 %の得点を目処に等価作業を行って回、級ごとにその都度定めます。

5. 成績表と合格証

成績表ならびに合格者には合格証を発行します。

次項で示すように、「日本語NAT-TEST」は各国で実施しております。成績の分析等はすべて東京本部で一括処理をしておりますが、中国のみ成績表と合格証は東京本部の指示に基づき天津事務局で発行をしております。この関係で、中国国内の成績表・合格証の用紙と日本を始めそれ以外の国の成績表・合格証の用紙には若干の違いがありますが、いずれも真正なものですのでご了承ください。

なお、日本語学校等からの要請に基づき、成績表並びに合格証の「副」を東京本部で発行をしております。用紙はコピー用紙ですが、東京本部のコンピュータから直接出力をしたもので、データ内容は全く真正なものです。この旨を表示して、成績表・合格証の「副」を発行しております。

なお、合格者の受験番号は回ごと、級ごとにホームページで公開をしております。

6. 開催数と開催地

従来は年4回の開催でしたが、2011年から年6回の開催としました。また、国内の要望に応じて2011年からは日本国内でも実施しております。

日本：東京、大阪、福岡など

中国：北京、上海、済南、福清、長春など

ベトナム：ハノイ、ホーチミン

インドネシア：バンドン

スリランカ：コロンボ

ネパール：カトマンズ

ミャンマー：ヤンゴン

モンゴル：ウランバートル

* これ以外の国、都市においても開催の方向で準備をしておりますので、詳しくは、ホームページをご覧ください。

7. ホームページアドレス

日本と中国においては、「日本語NAT-TEST」の受験申込はホームページ上で出来ることになっております。また、合格者の受験番号も回ごと、級ごとに公開されております。さらに、試験の開催国、都市も適宜追加されておりますので、最新のデータは是非下記のホームページでご確認ください。

www.nat-test.com

